

都内中小企業の事業資金に関する調査

(平成 26 年 11 月調査)

《 概要 》

- 主な取引金融機関は、全体では「都市銀行」が57.5%で最も高く、次いで「信用金庫」が31.1%であり、この2つで約9割を占めている。
- 主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）でみると、全体では30.8と前回（27.4）から3.4ポイント上昇し、「緩やか」が「厳しい」を上回る状況が続いている。
- 主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、全体では「変化なし」が69.1%と最も高く約7割を占めた。「低下」は14.2%と前回（10.4%）に比べて3.8ポイント増加した。
- 最近の借入金利は、「2%未満」が47.5%と最も高く、次いで「2%台」が37.7%となった。前回に比べ「2%未満」が4.3ポイント増加し、金利水準は低めに推移した。
- 今後3か月間の資金需要をDI値（「増加する」－「減少する」）でみると、全体では13.6と、前回（19.9）に比べて6.3ポイント低下した。
- 金融機関からの借入金総額の状況は、前年同時期に比べて「変化なし」が41.5%と最も高く、次いで「減少した」が40.7%となった。今後1年以内に現在額を上回ることがあるかについては、「ない」が49.1%で約半数に達した。

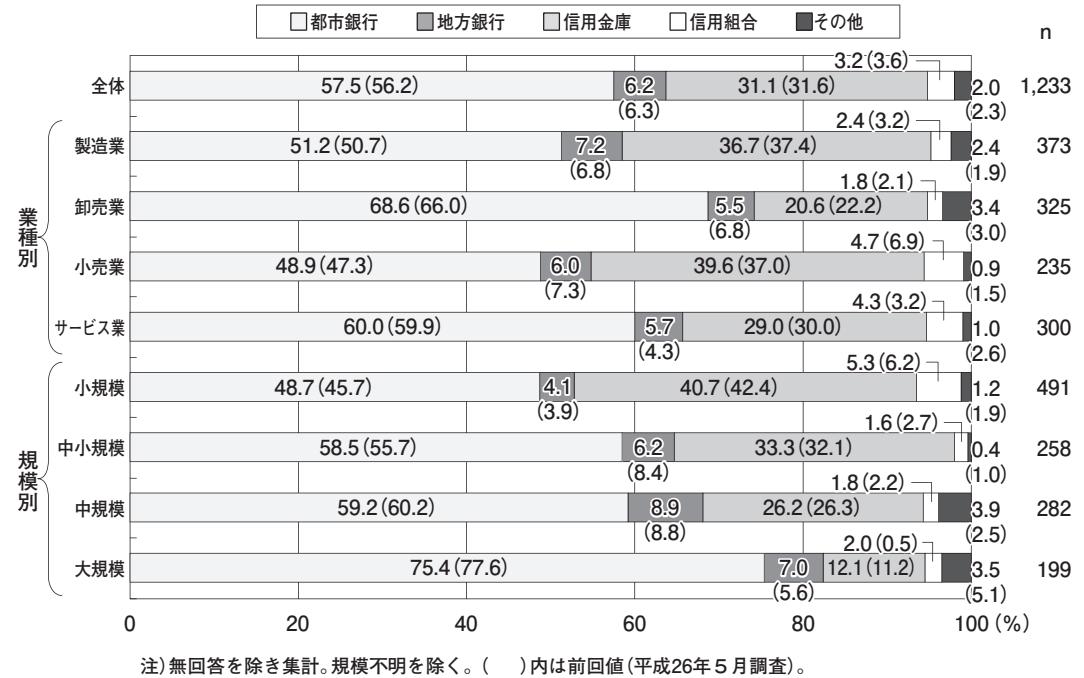
1 主な取引金融機関

主な取引金融機関は、全体では「都市銀行」が57.5%（前回56.2%）で最も高く、次いで「信用金庫」が31.1%（同31.6%）であり、この2つで約9割を占めている。前回に比べてほとんど変化はなかった。

業種別にみると、全業種で「都市銀行」が最も高く、特に卸売業では68.6%と7割近くに達している。次いでサービス業でも6割を占めている。一方、製造業と小売業では、「都市銀行」は半数程度で、第2位の「信用金庫」が4割近くと高くなっている。

規模別にみると、規模が大きくなるほど「都市銀行」が高くなっており、大規模では75.4%と4分の3を占めている。一方、小規模では「都市銀行」は半数を下回り、「信用金庫」が4割と高くなっている。

図表 1 主な取引金融機関



2 借入や返済に対する姿勢

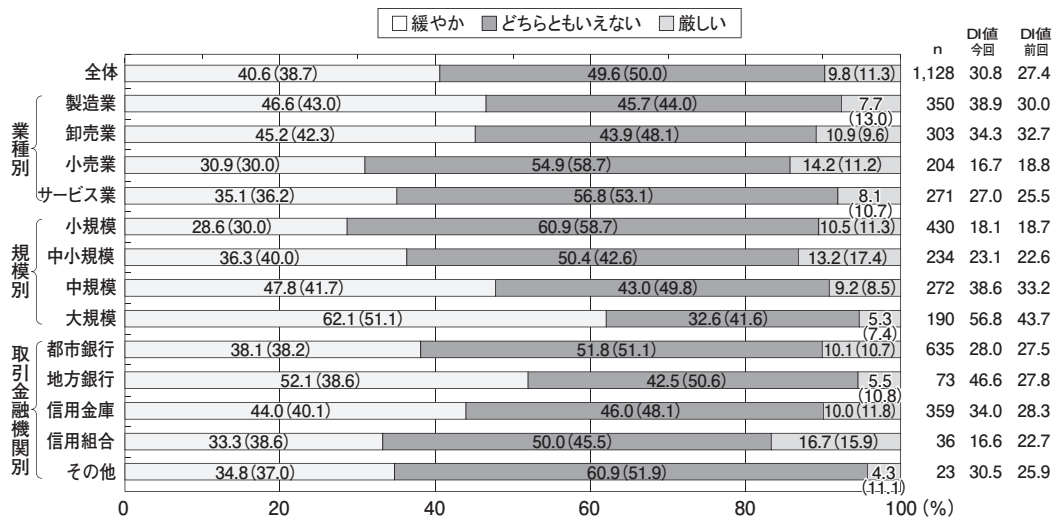
主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）でみると、全体では30.8と前回（27.4）から3.4ポイント上昇し、「緩やか」が「厳しい」を上回る状況が続いている。

業種別にみると、製造業38.9（前回30.0）が8.9ポイントと大きく改善し、他の業種に比べ最も状況が良くなっている。卸売業34.3（同32.7）とサービス業27.0（同25.5）も小幅ながら改善した。一方、厳しい水準にある小売業16.7（同18.8）は2.1ポイント悪化し、他の業種との差が開いた。

規模別にみると、規模が大きくなるほどDI値が高くなっている。大規模56.8（同43.7）は13.1ポイントと大きく上昇し、他の規模との差を広げた。一方、小規模18.1（同18.7）はわずかながら低下した。

取引金融機関別にみると、回答企業の取引割合が高い都市銀行が28.0（同27.5）とほぼ横ばいで推移したほか、信用金庫34.0（同28.3）は5.7ポイント改善した。

図表2 取引金融機関の借入や返済に対する姿勢



注)無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成26年5月調査)。

3 主な取引金融機関からの借入金利

(1) 金利傾向

主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、全体では「変化なし」が69.1%（前回68.6%）と最も高く約7割を占めた。「低下」は14.2%と前回（10.4%）に比べて3.8ポイント増加した。

図表3 金利傾向



注)無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成26年5月調査)。

(2) 金利水準

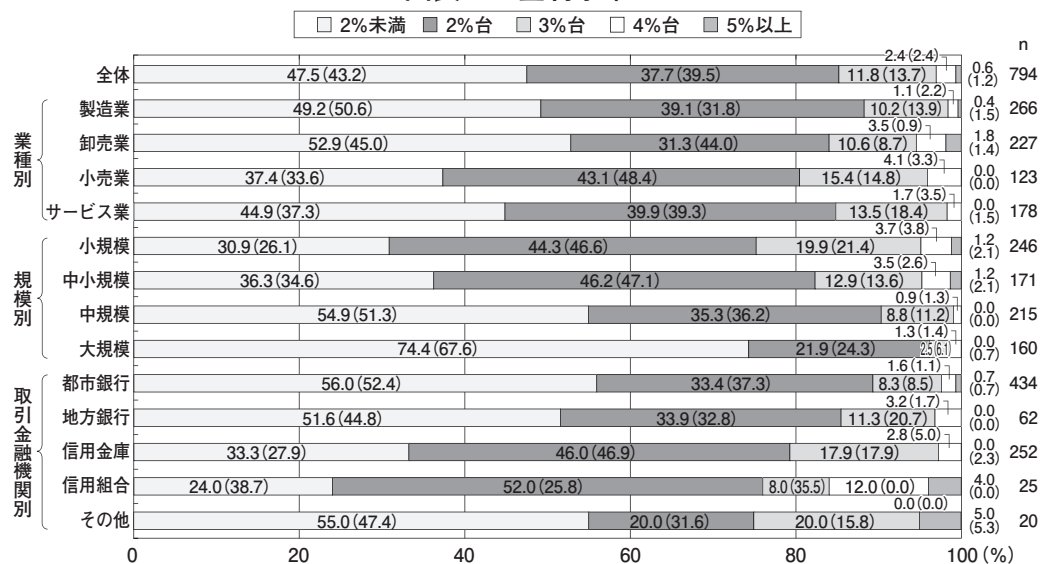
最近の借入金利は、「2%未満」が47.5%（前回43.2%）と最も高く、次いで「2%台」が37.7%（同39.5%）となった。前回に比べ「2%未満」が4.3ポイント増加し、金利水準は低めに推移した。

業種別にみると、小売業のみ「2%台」が「2%未満」を上回っており、他の業種に比べて金利水準が高めとなっている。他の業種は「2%未満」が最も高く、卸売業では52.9%（同45.0%）と7.9ポイント増加し、半数を超えた。

規模別にみると、規模が大きくなるほど「2%未満」が高くなっており、大規模では74.4%（同67.6%）に達した。前回に比べ全規模で「2%未満」が増加した。

取引金融機関別にみると、都市銀行では「2%未満」が、信用金庫では「2%台」が最も高い。都市銀行・信用金庫ともに前回に比べて「2%未満」が増加した。

図表4 金利水準



注)無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成26年5月調査)。

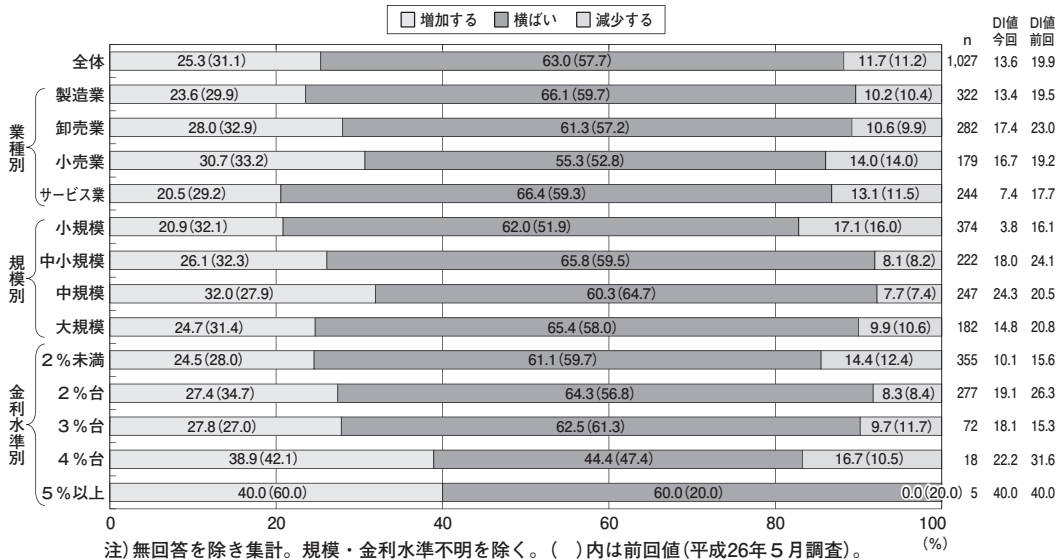
4 今後3か月間の資金需要

今後3か月間の資金需要をDI値（「増加する」－「減少する」）で見ると、全体では13.6と、前回（19.9）に比べて6.3ポイント低下し、資金需要は減少傾向にある。

業種別にみると、全業種でDI値が低下した。特にサービス業7.4（前回17.7）は10.3ポイントと大きく低下し、業種別で唯一、DI値が一桁台となっている。

規模別にみると、中規模を除きDI値が低下しており、特に小規模3.8（同16.1）では12.3ポイントと低下幅が大きくなった。

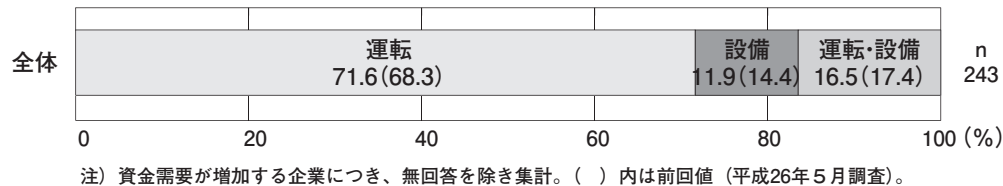
図表5 資金需要（今後3か月間）



(1) 資金使途

資金需要増加分の資金使途をみると、「運転」71.6%（前回68.3%）が最も高く、次いで「運転・設備」が16.5%（同17.4%）、「設備」が11.9%（同14.4%）となった。前回に比べ「運転」が3.3ポイント増加し、「設備」が2.5ポイント減少した。

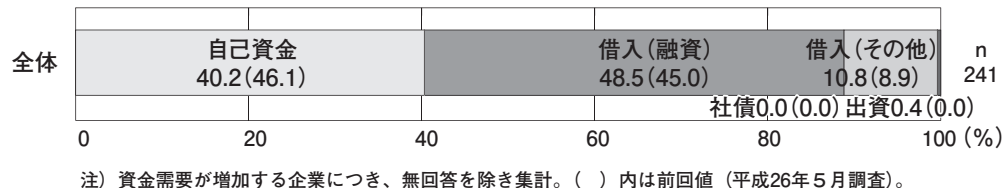
図表6 資金使途



(2) 調達手段

資金需要増加分の調達手段をみると、「借入（融資）」が48.5%（前回45.0%）と、「自己資金」の40.2%（同46.1%）を上回り、最も高くなった。前回に比べ「借入（融資）」が3.5ポイント増加した一方で、「自己資金」は5.9ポイント減少した。

図表7 調達手段



5 金融機関からの借入金総額の状況

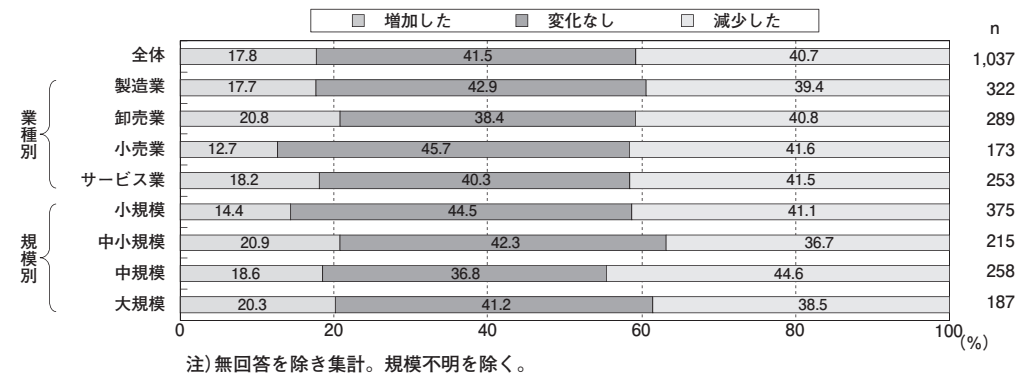
(1) 借入金総額（前年同時期比）

前年同時期と比べた現在の金融機関からの借入金総額の状況は、全体では「変化なし」が41.5%と最も高く、次いで「減少した」が40.7%となった。借入金総額が「増加した」のは17.8%で2割以下となっている。

業種別にみると、「増加した」は卸売業で20.8%とやや高く、次いでサービス業が18.2%となっている。小売業では「増加した」は12.7%にとどまった。

規模別にみると、中小規模と大規模で「増加した」が2割を超えた。

図表8 金融機関からの借入金総額（前年同時期比）



(2) 借入金総額の増加見込み（今後1年内）

今後1年内に金融機関からの借入金総額が現在額を上回ることがあるかについては、「ない」が49.1%で約半数に達した。「ある」は19.3%となっている。

業種別にみると、製造業では「ある」が21.1%とやや高くなっている。

規模別にみると、大規模で「ある」が26.8%と約4分の1を占めた。

図表9 借入金総額の増加見込み（今後1年内）

